

平成 30 年度平取地区エゾシカ捕獲連携協議会（第 1 回） 実施報告

(1) 日 時 平成 30 年 10 月 18 日（木） 13 時 30 分～15 時 10 分

(2) 場 所 ふれあいセンターびらとり 多目的室

(3) 出席者

平取町 2 名、北海道沙流川猟友会 7 名、北海道森林管理局 3 名、
日高北部森林管理署 5 名、受託者 3 名（計 20 名）

(4) 会議経過

1) 開会あいさつ

北海道森林管理局 横山森林環境保護技術分析官

2) 事業概要について

今年度の事業目的や事業期間、事業実施場所、実施体制、事業工程について確認した。

3) 捕獲手法等の検討について

捕獲事業実施計画書（案）をもとに捕獲事業の目的や実施場所、捕獲手法等について協議した。

○確認事項

- ・今回の協議会では捕獲手法等の大枠の方針を確認し、詳細については関係者間で調整し、検討会の意見も踏まえて捕獲事業実施計画書を完成させる。

質問	昨年度まで実施した捕獲連携事業での実施結果やそこで得られた知見について教えていただきたい。
回答	仁世宇地区の結果では、餌は圧片大麦が有効と思われた。昨年度は 3 月に入り、餌場周辺にヒグマ出没してしまったため注意が必要である。積雪は、昨年度の 2 月中旬以降は例年より多かったが、全体的には夕張ほど多くないと思われる。モバイルカリングでのエゾシカの出没時間は、地域によって昼前や夕方など様々であるが、現実的には夕方が良いと思う。
回答	地形的には夕張と振内はあまり変わらないが、積雪は夕張のほうが多い。餌付けについては、餌には寄りついたが、餌がすべてなくなるようなことはなかった。沙流川林道は日高町方面に抜けられる。運材等があるので除雪をする可能性があり、捕獲実施の際は注意されたい。

質問	昨年度のモバイルカリングは2日続けて実施したとのことであるが、2日目にエゾシカがいなくなるようなことはなかったか。
回答	夕張地区では捕獲効率は下がらなかった。準備や体制の都合から2日連続で実施していた。
質問	事業実施場所には狩猟者は入れないようにするのか。
回答	今年度は全期間銃猟入林禁止区域に指定されており、一般狩猟者は入れないようにしている。
質問	昨年度日高北部森林管理署で実施した捕獲連携事業では、誘引はいつ頃始めたのか。ヒグマの影響はなかったか。
回答	年明けから実施している。
回答	今年度予定の12月中旬以降であれば、ヒグマの問題は少ないと思われる。念のため足跡等がないか注意しながら実施したいと思う。
質問	餌場の設置場所は決定しているのか。
回答	こちらで案を作り、関係者と現場を見て決定したい。安全面からバックストップを確保することに加えて、射手の視点を十分想定した上で選定したい。また、夕張では実際に餌を置いてみて、餌付かないようであれば位置を変えることもあった。
質問	箱わなを使うということだったが、知床では結構有効であった。箱わなと小型囲いわなの使い分けはどう考えているか。
回答	箱わなについては、試験的に使用してみたい。基本的には設置スペースの問題で、小型囲いわなは少し広い土場のような場所、一方で箱わなは林内というイメージで実施を考えている。
質問	ライトセンサスで15頭程度確認したということであったが、推定で何頭ぐらい生息していると思われるか。
回答	正確な数字を出すのは難しい。ただし、平取町の地理的な位置から考えると、越冬地として、冬に向けてさらに集結してくると思われる。
質問	仁世宇のほうが、エゾシカの生息状況からすると事業地として適しているように思うがどうか。
回答	事業の内容や伐採事業の状況を踏まえると、仁世宇は除雪距離が長くなってしまい、今回は難しい。
回答	国有林と民有林で予算が分かれている。手前の除雪を民有林の予算で、奥の除雪を国有林の予算で実施できるようになるとよいが、手続きも複雑であり、今後の課題である。
質問	敷舎内林道もゲートまでは併用林道であるが、その除雪はどうなるか。
回答	今回はこの事業の一環としてこちらで除雪をする。

4) 捕獲個体の処理について

周辺の事業者の引取り条件等の情報を確認し、協議した。

○確認事項

- ・捕獲個体の引取りについては、南富良野町とむかわ町の有効活用施設を軸に、さらに情報を収集して検討する。

質問	むかわ町の事業者が平取町で解体施設を開くことを検討しているとのことだったが、何か情報があればいただきたい。
回答	施設を探しているという情報はあがるが、具体的に場所が決まった等の情報は入っていない。
質問	事業を実施する上で、有効活用に食肉利用を重視していくのか、ペットフード利用も有効として良いか、ご意見を伺いたい。
回答	事業としては食肉利用を進めるのが大事かと思うが、地域事業もあり難しいこともある。その場合はペットフード利用も有効かと考えられる。食肉限定ということではなく状況をみながら検討いただきたい。

5) その他

質問	地域振興等につながるアイヌ新法の制定準備が行われていることから、事業に差支えが出ない範囲で、事業を実施する際にアイヌの方も参加できるように配慮してもらえるとありがたい。
回答	この後開かれる、猟友会の支部役員会でも協議して検討してみたい。

6) 閉会あいさつ

平取町町民課 船越主幹

北海道猟友会沙流川支部 川上支部長

日高北部森林管理署 荻原署長



平成 30 年度平取地区エゾシカ捕獲連携協議会（第 1 回）の様子

平成 30 年度平取地区エゾシカ捕獲連携協議会（第 2 回） 実施報告

- (1) 日 時 平成 31 年 1 月 30 日（水） 13 時 30 分～14 時 30 分
- (2) 場 所 ふれあいセンターびらとり 小会議室
- (3) 出席者
平取町 1 名、沙流川猟友会 2 名、北海道森林管理局 3 名、日高北部森林管理署 4 名、
受託者 2 名（計 12 名）

(4) 会議経過

1) 開会

2) 準備の進捗および現地状況について

捕獲実施に向けた準備の進捗状況および現地状況について報告した。

○確認事項

- ・捕獲に従事する猟友会員および有効活用業者と 1 月 29 日に現地を視察し、流れ等の確認を行った。
- ・GPS 首輪は 1 頭装着済みであるが、2 頭目については捕獲実施直前まで装着を試みる。

質問	現場の状況および森林整備事業等について情報をいただきたい。
回答	森林整備事業については、造材が秋に終わり、運材も 1 業者を除いて 1 月 15 日までに終わっている。残り 1 業者については、しばらく残る予定である。業者には捕獲事業の日程の案内をしており、安全面は確保されている。除雪については、業者と連携し年明け 2 回幅広に除雪してもらっており、安全に通行できるようになっている。 日高側からの通行については、北電の作業が 1 月 18 日まで実施され、除雪が入っていたが、現在は積雪が多く通行できない。また沙流川林道のゲートも施錠してある。
回答	給餌状況については、最初一部の餌場だけ食べられている状況だったが、最終的には全ての餌場ですべて餌が食べられる状況になった。最近給餌の際にエゾシカを 15 頭くらい見る日もある。
質問	GPS 首輪の個体が夜間に餌場がある高台に上がって、日中は沙流川に下がっているという話だったが、沢沿で低い位置にある餌場 1 に夜間餌を求めているエゾシカは日中どこに行っていると思われるか。

回答	餌場 1 のように沢沿いの場合は、日中は尾根の上にいるような感じがしている。人を避けて人が行かないところに行っている可能性が考えられる。
----	--

3) 捕獲実施時の動きについて

捕獲実施時のスケジュールおよび当日の流れ・実施体制や安全対策について確認を行った。

質問	射撃個体を半矢にした場合どのように処理するか。
回答	現地で血痕など確認し、追跡できるようであれば捜索するが、一定時間探して見つからない場合は断念する。
質問	有効活用業者に渡す前に血抜きをすることがあるか。
回答	基本的には血抜きをせずに渡す予定である。ただし、午前中のわなによる捕獲個体は血抜きする場合も出てくる可能性があり、詳細は業者と調整する。
質問	GPS 首輪調査データを元に、図上に表示したエゾシカの軌跡は、日中と夜で表示の色を変更することはできるのか。
回答	現在お見せしているソフトウェア上ではできない。別の GIS ソフトウェアを用いて加工することができるため、報告書に向けて検討する。
質問	モバイルカリングが終了してから、ワナを含めて現場を撤去するのにどれくらいかかるか。
回答	3月8日までには小型囲いわなの資材も含めて撤去できるかと思う。作業日数は2日間程度で済む予定。日にちが決まり次第ご連絡するようにする。
質問	射手にプレッシャーがかかっているようなので、あまりプレッシャーかからないようにできるだけ配慮してほしい。
回答	射手の方にはなるべくプレッシャーがかからないように配慮したいと思う。

4) その他

特になし

5) 閉会あいさつ

北海道森林管理局 鶴巻野生鳥獣管理指導官



平成 30 年度平取地区エゾシカ捕獲連携協議会（第 2 回）の様子

平成 30 年度平取地区エゾシカ捕獲連携協議会（第 3 回） 実施報告

(1) 日 時 平成 31 年 3 月 6 日（水） 15 時 40 分～16 時 5 分

(2) 場 所 ふれあいセンターびらとり 多目的室

(3) 出席者

平取町 2 名、沙流川猟友会 2 名、北海道森林管理局 2 名、日高北部森林管理署 4 名、
受託者 3 名（計 13 名）

(4) 会議経過

1) 開会

2) 捕獲事業の総括・反省について

捕獲事業の総括・反省について関係者間で意見交換を実施した。

意見	初めての場所で現場の様子がわからない中での手探り作業であり、その中ではうまくまわせたというのが率直な感想である。特に猟友会の方には調整段階で多くの協力をいただき、事業が始まってからもきちんと動いてもらい助かった。
意見	初日に現場を見させてもらったが、現場の雰囲気非常に良く、結果にもつながっており、現場における人間的なつながりや協力体制の重要性を感じた。
回答	狩猟事故を受けて全体的にエゾシカ対策が衰退しなければよいと思ったが、署長主導のもと率先して事業を進めることで、署全体では百数十頭というエゾシカを捕獲する結果にもつながった。森づくりのためにも続けていってほしいと思う。
意見	こういう仕事を与えられると、普段仕事を持っている人は出られず、結果的に高齢者が出ることになる。今後さらに作業従事者は高齢になる可能性が高く、作業の配分や内容についてもうまく配慮してもらえるとありがたい。
意見	調整段階で、会員には言いづらかったが、なにかあっても指揮を執る受託者の言うことをきくようにということで指導させてもらった。
意見	それが一番難しく重要なことだと思う。それがないと動きがバラバラになってしまう。
意見	支部の中でも日高の分区の方にも声をかけてもらったのは良かった。モバイルリングへの理解を深めてもらったことで、その後の別の事業も進めやすくなった。

意見	<p>猟友会に仕事をお願いする場合、多くは支部が窓口になるが、沙流川支部のように複数の分区があり、かつ市町村がまたがる場合は調整が大変である。猟友会の支部によってはさらに多くの市町村にまたがることもあり得るため、考慮が必要だと思う。</p>
意見	<p>沙流川支部も会員同士でも顔を知らないことが多い。今回の給餌の際もあえて平取分区と日高分区と組みあわせて、交流してもらうようにした。</p>
意見	<p>給餌の際にも、2人組のうち同じ人が2回続けてやって、また次の人が2回続けて引き継いでやってもらう仕組みになっており、状況の引き継ぎもしっかりなされており非常に良かった。</p>
意見	<p>町では事業に直接関わらなかったが、猟友会とは調整させてもらった。撃つ際にカメラが回っていて緊張したというようなことを聞いたので、小型のカメラを使用するなど、負担を軽減する工夫があればよいと思った。今後、町でも有害捕獲を通年実施する方向であるが、冬期のくくりワナについては、凍結防止の改善ができればと思う。誘引のやり方など今回の事業のノウハウをフィードバックしていきたい。</p>
質問	<p>今回の事業箇所では製品生産と重なったが、除雪を生産事業でやってもらえるメリットは受託者としては大きいものであったか。</p>
回答	<p>特に1回目の除雪は雪が多い中での除雪であったため、こちらとしては大変助かった。本来、生産事業を実施することで、狩猟禁止区域になる地域であったと思われるが、今後はそうした場所で事業としての捕獲を実施する流れができると良いと思う。</p>
質問	<p>今回、運材業者や販売先に日程をあわせてもらう形になったが、それに伴ってのクレーム等はなかったか。</p>
回答	<p>事前に捕獲日を指定したため、それに合わせて協力してくれていた。ただし、今回は問題にはならなかったが、運材と捕獲事業では（通行する車両の幅が違うため）、現地で求められる除雪の幅も異なってくる。</p>
意見	<p>仁世宇地域の連携捕獲では木、日曜日に捕獲するようにして、その日には入らないように協力してもらった。また、今回は公売ではなくシステム販売で大口の販売にできたため、少ない業者とのやりとりで済んだことが良かった。公売では相手が多くなり調整が大変であるが、その場合は入札公告に特記事項として日曜日には入れないと明記することで対応している。今回の事業の例をもとに、森林整備事業と捕獲事業が調整できることを示して欲しい。</p>

3) 閉会



平成 30 年度平取地区エゾシカ捕獲連携協議会（第 3 回）の様子